

一般社団法人 日本フルードパワー工業会

本 部：〒105-0011 東京都港区芝公園3丁目5-8号 機械振興会館内

TEL. 03 (3433) 5391 FAX. 03 (3434) 3354

西日本支部：〒651-2239 兵庫県神戸市西区櫛谷町松木234番地

川崎重工業(株) 精密機械・ロボットカンパニー 企画本部内

TEL. 078 (991) 1133 FAX. 078 (991) 3186

2022年 年始会を開催

2022年の新年を迎え、当会恒例の年始の会を1月12日(水)午後3時から東京プリンスホテルにおいて開催いたしました。

当日は、コロナ禍にもかかわらず、会長以下会員各社より84名が、また、御来賓として経済産業省製造産業局の福永審議官、学会から多数の先生方、プレス関係者等ご来賓の方々を含め総勢111名の皆様方の出席のもとフルードパワー業界の新年の門出を祝いました。

定刻に事務局より「これより一般社団法人日本フルードパワー工業会の2022年の年始の会を開催いたします」との発言があり、安藤会長から新年の挨拶に続いて、ご来賓の経済産業省福永大臣官房審議官より祝辞をいただきました。



(安藤会長 挨拶)

主 要 目 次

ISSN. 1345-2371

2022年 年始会を開催・・・・・・・・・・1

委員会開催・活動状況

標準化事業・・・・・・・・・・4

技術調査事業・・・・・・・・・・5

会員ニュース・・・・・・・・・・5

今後の主要行事日程・・・・・・・・5

(一社) 日本フルードパワー工業会

URL <http://www.jfpa.biz/>

会長挨拶は以下の通りです。

「新年、あけましておめでとうございます。只今ご紹介賜りました会長の安藤でございます。

このコロナ禍で、昨年は開催できなかった年始会を、密を避けるための人数制限や、懇談と飲食の場を分けるなどの対策の中ではありますが、ここに開催できたこと、そして、皆様良き新年を迎えられたことを思い、ここに2022年年始会開催にあたりまして、一言ご挨拶申し上げます。

昨年も国内外では多くの出来事がありました。国内では緊急事態宣言下での開催について賛否両論がありました東京オリンピック・パラリンピック2020もどうか無事終了いたしました。また、菅政権から岸田政権への移行などもありました。一方海外に目を向けると米国の大統領選挙でのバイデン氏の勝利、ミャンマーのクーデター、中国化が加速する香港、経済軍事両面での覇権争いに移行しつつある大国間の新たな緊張関係など、コロナ禍での目まぐるしい情勢の変化がありました。

さて、今年は、脱炭素社会に向けてのGX、デジタル社会に向けてのEXの動きが加速すると思われまます。昨年には縦割り行政の弱点を補い国のデジタル化を推進するためにデジタル庁が発足し、デジタル・トランスフォーメーションの社会実装に向かった動きが出てきております。当業界でも、無人化・省人化に向けた「デジタル」の取り組みの重要性が増しています。AIを活用した工場の無人化稼働や遠隔監視の導入などのデジタル・トランスフォーメーションの推進は、生産性の向上や競争力強化に資するのみならず、効率的なデータ収集や有事の際の企業間あるいは工場間の連携を通じたレジリエンス強化といった観点からも、大変重要な取り組みと考えております。工業会としては、これら課題に取り組んでいくため、昨年新たに、IoT推進部会を発足させたところでありまます。

カーボンニュートラルに関しましては、当工業会会員各社さんで、省エネ化製品の一層の開発に努めておりますが、昨年開催しましたIFPEX2021で、今後のGX、グリーントランスフォーメーション社会を見据え、「新たな時代に向けた挑戦」と題し、「地球環境ともものづくりに貢献するフルードパワー」を広く紹介させていただきました。国内外に向けて日本のフルードパワー業界の新たな挑戦を広く発信出来たと確信しております。今後のイノベーション誘発の一助となれば幸いです

このような状況下での当業界の業績ですが、おか

げさまで前年度の新型コロナウイルス感染拡大影響による需要減から大きく回復し、まだ正確な数字は出ておりませんが、対前年約25%増の9,300億円程度と見込まれます。政府がまとめた直近12月の月例経済報告では、「個人消費が前月11月では、一部に弱さが残るものの、持ち直しの動きがみられる。12月ではこのところ持ち直していくと上方修正しております。一方、半導体等の不足、原材料の高騰、そしてオミクロン株の急拡大によるリスクも懸念されております。このように、様々な動きがありますが、それを乗り越えていくためには、競争と協調の中で皆様の知恵を結集していただき、工業会としてもそれらを支えるべく一層の活動をしていきたいと考えております。最後になりますが、ここに御列席の御来賓、また会員各社様のご発展ご健勝を祈念いたしまして私の挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。」

福永審議官からの祝辞は以下の通りです。

「日本フルードパワー工業会年始会の開催に当たり、一言御挨拶を申し上げます。

本日、万全の対策を講じ開催に導いた安藤会長以下事務局の皆様にはまずは経緯を表します。まずは残念ながら、コロナの話からはじめなくてはなりません。新型コロナウイルスの感染拡大から2年が経過しました。産業界の皆様には、テレワークの推進や時差出勤、職域でのワクチン接種など、様々な形で御協力をいただき、改めて御礼申し上げます。新型コロナに関しましては、年末の新株の登場など足元の感染状況は心配ではありますが、我々は2年前とは違います。得体のしれない、見えない敵と戦う状況に比して、今我々は何をすべきか、何に気をつけるべきか、経験と知識を得てきました。こうした「ウィズ・コロナ」の知見を活用して正しく対策をしながら、経済を力強く回していかなければなりません。

さて、昨年10月には、国内唯一のフルードパワー技術の専門見本市であるIFPEX2021が開催されました。企業向けの技術展示のみならず、将来の人材を呼び込むため大学の出展や学生ツアーといった取組もされたと伺っております。これらを通じて学生を含む多くの方々に貴業界の魅力を発信できたことと思います。今後とも、皆様と知恵を出し合いながら、どういった方法で、どう経済を動かしていくか、しっかり取り組んでいきたいと思ひます。その意味でも、今後確実に官民で取り組むべきはポストコロナも見据えた未来投資です。特に、デジタル化の進展、脱炭素の潮流、更に大国間の対立など、製

造業を巡る環境変化は加速しております。むしろ、こうした変化をビジネスチャンスと捉えて、能動的に取り組むことが必要です。

コロナ禍は、社会全体のデジタル化を加速しております。政府でも昨年9月1日デジタル庁を設置しました。我が国の製造業においても、新たな生活様式への対応、生産性向上、そして新事業の創出に向けて、企業や社会の抱える課題の解決に、より一層デジタル技術を活用していくことが求められています。貴工業会におかれては、昨年、新たにIoT推進部会を立ち上げ、製造業のデジタル化への対応等について議論を進めていると伺っております。政府としても、企業の皆様のこのような新しい挑戦を、DX投資促進税制等で、しっかり支援させていただきたいと考えております。

また、我が国は一昨年「2050 カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現を目指す」ことを宣言しました。その中で、昨年策定した「グリーン成長戦略」では、水素・アンモニアや洋上風力といったエネルギー関連産業をはじめ14の重要分野を位置づけました。野心的なイノベーションを支援するため、2兆円のグリーンイノベーション基金をはじめ、あらゆる政策措置を活用してまいります。

加えて、サプライチェーンの強靱化も重要な課題です。コロナ禍で、半導体、コンテナなど様々なものが足りない、或いは値段が高騰している状況で、皆様日々大変ご苦労をされていると思います。及ばずながら、経済産業省としてもお手伝いできることもあろうかと思っておりますので、是非色々とお話ください。中長期的にサプライチェーンを強靱なものにしていくのが重要で、戦略的技術の研究開発に対する支援をはじめ、「経済安全保障」が、政策として具体化してきています。サプライチェーンにおける人権の問題にも取組が必要とされています。これらは、個社の取組を超えた部分での対応が必要で、日本フードパワー工業会をあげて取り組んでいただきたい課題ですし、経産省としても、皆様と一緒にしっかりと取り組んでいきたいと思っております。

今、岸田政権では、成長と分配の好循環を生み出し、新しい資本主義を実現していくビジョンを掲げております。私としては、今年、産業界の皆様の積極的な未来投資で、コロナ禍、そして懸念されはじめたインフレを乗り越えながら、明るい景気、経済、その中での皆様の配慮による幅広いステークホルダーへの分配、それによる好循環といった展開がみられることを祈念しております。是非、皆様と共に、新しい発展の契機を築く、という年にしていきたい

と思います。最後になりますが、日本フードパワー工業会の皆様の益々の御発展を心から祈念して、私の御挨拶とさせていただきます。」



(ご挨拶される福永審議官)



(年始会 風景)

第92回理事会の開催

1月12日13時30分から東京プリンスホテル「高砂」にて開催した。

出席理事21名、監事2名に加え、来賓として経済産業省産業機械課から、安田課長、横山補佐、宮下係長がご臨席された。

冒頭、安田課長から、最近の経済動向等の説明を交えたご挨拶があり、その後、政策委員会で議論された2022年度事業計画書及び収支予算書(案)、第23回定時総会開催について事務局から説明し、了承を得た。2022年度事業計画については、前号(2021年12月号参照)政策委員会活動報告の通りです。



委員会開催・活動状況報告
(詳細については各担当者にご照会下さい)

~~~~~  
標準化事業  
~~~~~

空気圧バルブ分科会

日時 1月18日(火)、13:30~16:00
場所 機械振興会館 JFPA 会議室+リモート
出席者 石毛主査以下6名(うちリモート:6)
事務局 前畑

議事

前回議事録の確認後、次いで、ISO 投票案件について、新規投票案件について審議し、

ISO/DIS_12283:DIS 投票→承認、ISO/TC131/SC5/WG3 コンベナー交代投票→賛成、で投票することとした。

次いで、ISO 国際会議について情報共有した。

次いで、昨年10/27開催のISO/TC131/SC5 国際会議の報告があり、情報共有した。

次いで、昨年12/17開催のJIS 原案作成委員会の報告があり、JIS_B8672-2(空気圧一試験による機器の信頼性評価-第2部:方向制御弁)の改正原案の審議がなされたとのこと。

次いで、JIS 原案作成委員会にて受けた指摘事項の修正作業を行った。

次回開催:4月20日、機械振興会館+リモート

空気圧調質機器分科会

日時 1月20日(木)、13:30~16:00
場所 機械振興会館 JFPA 会議室+リモート
出席者 土岐主査以下6名(うちリモート:6)
事務局 前畑

議事

前回議事録の確認後、次いで、ISO 投票案件について、既に投票済み案件の報告があり、

ISO/TC131/SC5/WG5 幹事国の募集:日本は希望しな

い、ISO_20145:2019 への Annex 追加の賛否→賛成、で投票したとのこと。

次いで、ISO 国際会議について情報共有した。

次いで、昨年11/30開催のISO/TC131/SC5/WG5 国際会議の報告があった。本会議において、ISO_20145(サイレンサ規格)に関して日本提案のプレゼンを行い、Annex 追加の賛同が得られ、正式には投票にて決定することとなった。後日投票の結果、日本提案の Annex 追加が正式に採択された。今後、日本にてプロジェクトリーダーを務め規格化を進めていくことになるとのこと。

次いで、昨年12/17開催のJIS 原案作成委員会の報告があり、JIS_B8672-4(空気圧一試験による機器の信頼性評価-第4部:減圧弁)の改正原案の審議がなされたとのこと。

次いで、JIS 原案作成委員会にて受けた指摘事項の修正作業を行った。

次回開催:2月29日、機械振興会館+リモート

空圧信頼性分科会

日時 1月25日(火)、13:30~16:00
場所 機械振興会館 JFPA 会議室+リモート
出席者 妹尾主査以下5名(うちリモート:5)
事務局 前畑

議事

前回議事録の確認後、ISO 国際会議について情報共有した。

次いで、昨年12/13開催のJIS 原案作成委員会の報告があり、JIS_B8672-1(空気圧一試験による機器の信頼性評価-第1部:通則)の改正原案の審議がなされたとのこと。

次いで、JIS 原案作成委員会にて受けた指摘事項の修正作業を行った。

次回開催:4月12日、機械振興会館+リモート

油圧バルブ分科会

日時 1月27日(木)、13:30~16:00
場所 機械振興会館 JFPA 会議室+リモート
出席者 高野主査以下7名(うちリモート:7)
事務局 前畑

議事

前回議事録の確認後、ISO 投票案件について、既に投票済み案件の報告があり、ISO/SR_5781:定期見直し投票→継続(Confirm)、ISO/SR_7368:定期見直し投票→改訂、ISO/SR_6952:定期見直し投票→継続(Confirm)、ISO/SR_15217:定期見直し投票→継続(Confirm)、で投票したとのこと。また、新規投票

案件について審議し、ISO_6403 の WG 移管可否投票
→賛成、で投票することとした。

次いで、ISO 国際会議について情報共有した。

次いで、昨年 10/27 開催の ISO/TC131/SC5 国際会
議の報告があり、情報共有した。

次いで、JIS_B8665 (油圧バルブ取付面及びカー
トリッジ形弁取付穴形状の識別コード) の改正作業
について検討した。対応国際規格 (ISO_5783) と対
比しながら修正内容を討議した。

最後に、今年度活動実績及び来年度活動計画につ
いて討議した。来年度は JIS_B8664 (油圧減圧弁、
シーケンス弁、アンロード弁、絞り弁及びチェック
弁取付面) 改正あるいは JIS_B8386 (油圧バル
ブ流量に対する差圧特性の決定方法) 改正を実施
することとした。

次回開催：6月15日、機械振興会館+リモート

* ISO の動き

- ・2022年3月末までの開催予定の国際会議はコロナ
ウイルスの影響で対面会議は中止とし、ウェブ会
議での開催の指示が出ている。
- ・2022年の ISO/TC131 国際会議は、春季 (5月) : ウ
ェブ会議、秋季 (10月) : 日本・姫路、で計画され
ている。

技術調査事業

技術委員会空気圧部会第 586 回特許分科会

日 時 1月21日 (金) 13:30 ~ 14:30

場 所 Web 会議

出席者 今野幹事以下 4 名

事務局 吉田

議 事

はじめに前回議事録及び配付資料の確認を行った。
公報の検討と無効理由調査について、1件について
調査を終了することとした。3件については引き続
き調査を行うこととした。1件について新たに調査
を開始することとした。特許異議申立および無効審
判・検討経過チェック表の修正版の内容を確認し承
認を得た。

河野委員より今月をもって退任する旨の報告があ
った。

次回開催：2月18日 (金) Web 会議

会員ニュース

☆株式会社妙徳が1月1日付けで下記社名に変更に
なりました。

※新社名：コンバム株式会社

今後の主要行事予定

※2022年

☆3月25日 (金) 第35回政策委員会

☆4月22日 (金) 第93回理事会・懇親会

☆5月19日 (木) 第23回定時総会・懇親会

☆5月20日 (金) 第60回 JFPA 懇親ゴルフ会

1月に開催された当会各委員会に出席された皆様は
以下の通りです。(敬称略)

(標準化事業)

空気圧バルブ分科会

開催日 1月18日 (火)

出席者

主 査 石毛浩二 (TAIYO)

委 員 山崎慎也 (SMC)

〃 田路渡 (甲南電機)

〃 保坂周一 (コガネイ)

〃 夏目清辰 (CKD)

〃 八手又秀浩 (日本ピスコ)

〃 鈴木一成 (妙徳)

空気圧調質機器分科会

開催日 1月20日 (木)

出席者

主 査 土岐真人 (コガネイ)

委 員 檜垣匡光 (SMC)

〃 阪上隆之 (甲南電機)

〃 國崎雄嗣 (CKD)

〃 宮本秀樹 (TAIYO)

特別参加 小田敏裕 (甲南電機)

空圧信頼性分科会

開催日 1月25日 (火)

出席者

主 査 妹尾満 (SMC)
委 員 川端啓之 (アズビルTACO)
" 吉田重和 (CKD)
" 中曽根祐司 (東京理科大学)
" 眞田一志 (横浜国立大学)

☆経済産業省ホームページ

経済産業省のHPでは①政策②申請・届出③統計④政策提言⑤情報公開のリンク等から必要な情報が得られます。

<http://www.meti.go.jp/>

油圧バルブ分科会

開催日 1月27日(木)

出席者

主 査 高野一治 (油研工業)
委 員 伊藤達夫 (KYB)
" 瀬川均 (ダイキン工業)
" 小林正幸 (ナブテスコ)
" 八上光春 (廣瀬バルブ工業)
" 浦井隆宏 (ボッシュ・レックスロス)
" 小林義伸 (日立建機)

☆中小企業庁ホームページ

中小企業庁HPでも中小企業向け施策に関する多くの情報が得られます。

<http://www.chusho.meti.go.jp/>

(技術調査事業)

技術委員会空気圧部会

第586回特許分科会

開催日 1月21日(金)

出席者

幹 事 今野 英俊 (コガネイ)
委 員 井野雅康 (SMC)
" 安田善仁 (甲南電機)
" 瀧 芳久 (CKD)

~~~~~

月間行事概要

~~~~~

<1月>

18日(火)

・標準化(委)空気圧バルブ分科会

20日(木)

・標準化(委)空気圧調質機器分科会

21日(金)

・技術(委)空気圧部会第586回特許分科会

25日(火)

・標準化(委)空気圧信頼性分科会

27日(木)

・標準化(委)油圧バルブ分科会